

社会実験の概要

期間:平成25年11月9日(土)～平成26年3月31日(月)

内容:

1. 屋内測位技術に関する比較検討

①ARマーカ方式

②Bluetooth-ID発信機方式

の2つの方式について、特性を取りまとめ、経路誘導システムへの適用性について比較検討する。

2. 経路案内システム実験

スマートフォンのアプリケーションとして、特に屋内での経路誘導システムの有効性を検証するとともに、運用上の課題や今後の将来イメージについて整理する。

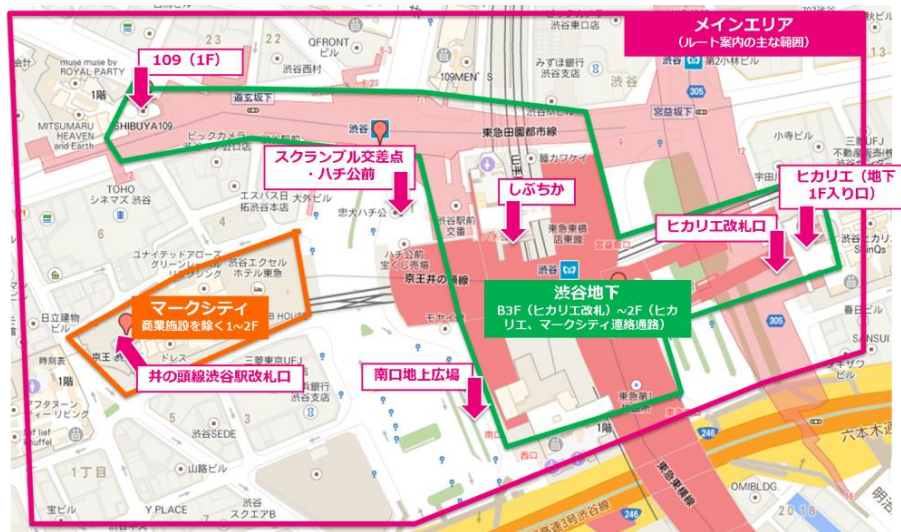


図 実験エリア(渋谷地下)

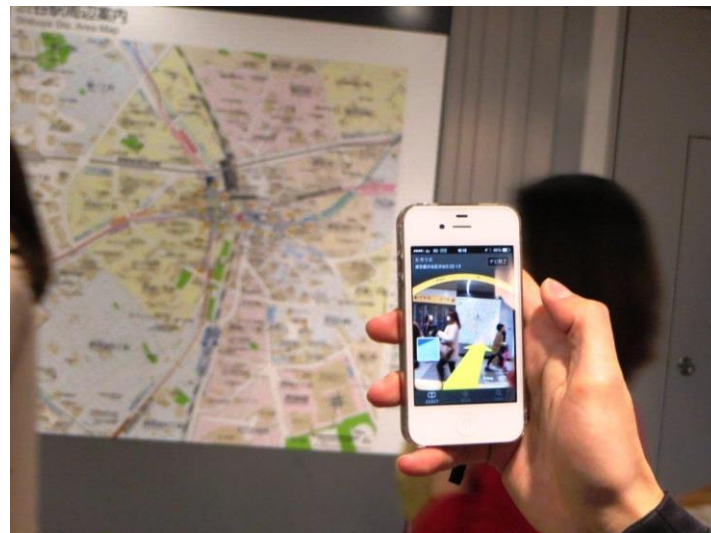


図 スマートフォンによる誘導イメージ

実験結果

1. 経路誘導システム使用の有無による目的地までの到達所用時間の変化

期待された効果	計測結果	計測結果に対する評価
経路誘導システム使用により目的地までの到達所用時間が減少	Bluetooth-ID、ARマーカールを利用した場合ともに、経路誘導システムを利用しない場合に比べ、移動により長い時間を要する結果となった。	経路案内アプリケーションの操作性向上や、経路案内精度を高めるためのBluetooth-ID発信機・ARマーカール設置位置・設置密度や発信機の受信感度について検討が必要。

2. 経路誘導システムに関する満足度や改善点等についてヒアリング

期待された効果	計測結果	計測結果に対する評価
利用者アンケートの結果、経路案内システムが将来的に必要なと感じた利用者が半数以上	将来的に必要なとの意見が63%。さらに、あれば便利との意見が34%。必要ないとの意見は3%。	期待された効果が得られたものとして評価

本格実施に向けた課題

- ① 屋内測位ツール密度を高く設置するために、関係者（道路管理者・建物所有者・建物管理者・周辺商業施設関係者・地域住民等）との調整が課題
- ② 分かり易さを追求するためには、シンプルに経路を表示する方法についての検討が課題
- ③ システムの運用体制はNPO等の法人格を有する組織・団体が行うことが望ましい。また、費用負担は受益者負担の考え方が望ましい
- ④ 広告収入を得たとしてもそれは営利ではなく公共性が高い経路案内サービス提供のために充当されることになるので、続き道路占用料の免除を受けられるよう関連法令の柔軟な解釈・運用が課題